

第10章 樹木 ～能美市の名木・自然遺産～

1 神木根上り松(浜開発町) 平成12年建立

推定樹齢約300年の立派な老松で、樹根が地表から露出して盛り上がった非常に珍しい樹容は大変美しく、見る人に深い感動を与えます。昭和3年(1928)、神社境内の松は、この木を残して全て切り倒されましたが、この松は何回切ろうとしても切ろうとしても都合が悪くなるなどして切れなかったと言われます。古くから「神木の松」「街道の松」(藩政時代に国道が内陸部に移動してから、湊回り道と呼ばれ脇道往來の機能を果たしてきた)と呼ばれ、不思議な因縁のある松で、地域の象徴的な象徴として慣れ親しまれてきた貴重な天然記念物です。樹高12m、樹周2.7m。



2 根上松由来碑(高坂・根上町)

平成17年建立

通称、根上山の尾根の最頂部付近に樹高14m、樹周0.86m、推定樹齢120年の松です。樹根が地上より約0.6m隆起した非常に特異な樹形であり、「根上」の名は、この樹形に由来とされています。『源平盛衰記』・『義経記』にも記述されていますが、現在の松は明治時代の『皇国地誌』に記載のある「根上松」の後継木といわれています。

3 七福の松(西任田町)

古くから地元の神木の松として親しまれてきた黒松群です。樹齢150年を過ぎた7本の松の樹根が地表に浮き上がり、更にそれぞれが複雑に絡み合い、非常に特異ながらも瀟観的にも優れた松林を形成しています。このような松林は、県内でも稀有です。





4 タブの樹(西二口町) 昭和57年建立

タブの樹群は西二口春日神社の御神木でも最も古く、約320余年を経ているといわれ、昭和57年(1982)に根上町文化財に指定されました。樹齢180～250年で樹高15m前後、樹周3.5mとされています。

5 日吉神社神木榎(福島町)

福島は18世紀初め、湊回りの道に沿って村を作りました。村作りの最初に神社を移し、当時の日吉神社の神域を示すものとして榎が植えられたものと考えられ、昭和初期まで左右1対でした。現在、大榎は村作りの歴史を語る神木として、町民から慕われています。



6 スダジイ(佐野町)

狭野神社は『延喜式神名帳』に記載されている延喜式内社です。境内は広く約3千㎡あり、裏には神苑「神楽山」もあります。神木とされる樹齢約400年のシイの大木は、天狗が棲んでいたという伝説があります。社叢では全部で44科、90種の植物がみられます。昭和52年(1977)に寺井町指定文化財となりました。



7 ネジキ(宮竹町) 昭和62年指定

昭和53年(1978)10月の宮竹日吉神社の叢林調査では、ウラジログシ・ネジキ・チシマササ・ヒメアオキが群生する屈指の原始の生態を有する鎮守の森であると報告されました。同62年(1987)12月に辰口町指定文化財となりました。

ネジキの幹周は1.83m、樹高は12.0mで県1位といわれています。平成9年(1997)6月の再調査では、アカメガシワなど45種類の樹木植生が認められ、県下有数のネジキの群生も確認されました。

平成17年(2005)に発生したカシノナガキクイ虫害で、ウラジログシなどが立ち枯れする被害が発生し、その拡大防止のため伐採されました。しかし翌年に、根元から新たに萌芽し、既に2mを超える成長をみせています。



8 アベマキ(高座町)

高座八幡神社にある周囲3.83m、樹高28.0mのアベマキです。平成21年(2009)に市指定文化財となりました。県3位の巨樹です。

9 ホウノキ(坪野町)

坪野八幡神社社叢は、昭和62年(1987)に辰口町指定文化財になりました。
ホウノキの幹周は2.80m、樹高21.0mで県1位ということです。



10 無患子樹標石(仏大寺町) 昭和31年建立

無患子樹は、本州の中部以南の山林に生え、高く育つ落葉高木です。仏大寺の無患子樹は昭和39年(1964)に辰口町指定文化財になりました。各地に移植されており、辰口福社会館や金剛寺八幡神社・火釜八幡神社などでも見ることができます。

